

Garden
City
UBE

第Ⅱ章

緑と花と彫刻のまち宇部の
歩み

1

「緑と花と彫刻のまち 宇部」 ができるまで

本市の緑化事業の歩みを振り返ります。



戦 後

宇部市は戦災により市街地の大半を焼失したものの、再建にかける市民の熱意と石炭景気に支えられ、戦後順調な復興を遂げました。一方、産業の発展とともに、企業の石炭使用量が増加し、降灰によるばいじん汚染という公害問題が発生しました。

ばいじん世界一の汚名返上

1949 年

市民の生活環境を守るため「宇部市降ばい対策委員会」が設置されました。

1951 年

全国に先駆けて、「産・官・学・民」からなる「宇部市ばいじん対策委員会」を設置し、相互信頼と協調の精神をもって、話し合いによる、全市民が一体となった「宇部方式」といわれる独自の公害対策の取り組みを積極的に展開し、ばいじん汚染の克服に努めました。

1970 年

市民、事業者、行政の環境保全に関する責務を明らかにした「宇部市環境保全条例」を制定し、総合的な環境保全対策への取り組みが始まりました。

1997 年

「宇部方式」による公害対策の取り組みが国際的に評価され、国際連合環境計画（UNEP）から「グローバル500賞」を受賞しました。



まちに緑を取り戻そう

宇部市の緑化事業のはじまりは、降灰によるばいじん汚染という公害問題を克服することがきっかけとなりました。

1950年

緑化事業（客土と施肥による土壌づくりから）に着手し、樹木の成長に従い、次第に市民の共感や協力が得られはじめました。

1951年

平和通りの緑化に着手しました。

1951～52年

常盤通り～沖ノ山線の緑化に着手しました。

1953年

平和通り～常盤通りの緑化で建設大臣表彰を受賞しました。

1963年

宇部市のキャッチフレーズが「緑と花の工業都」に決まりました。

1966年

様々な市民運動を統合した、「宇部市緑化運動推進委員会」が組織され、緑化事業が推進されました。

1972年

宇部市緑化運動推進委員会（会長：宇部市長）が実施した一般公募により、市木を「くすのき」と決めました。

1983年

緑の都市賞「建設大臣賞」を受賞しました。

1987年

緑化推進運動功労者「内閣総理大臣賞」受賞、都市景観形成モデル都市に指定されました。

1989年

宇部市のキャッチフレーズが「緑と花と彫刻のまち」に決まりました。

1993年

「緑と花と彫刻のまち 宇部」にふさわしい、うるおいのある都市景観を創出するため、市道常盤通り宇部新川駅線（シンボルロード）を再整備しました。

2006年

市道宇部新川駅通り線を再整備しました。

現在

街路樹が市民2人に1本の割合となりました。



花いっぱい運動

緑化事業が多くの市民の共感を得て、まちぐるみの運動に育ち、緑が根付いていくにつれて「緑と花づくりを通して生命の尊さを」「人づくりの原点を緑と花づくりに」といった声が高まってきました。

1955年

商工会議所の提唱により、「宇部を花で埋める会」（会長：宇部商工会議所会頭）が発足しました。

1956年

「宇部を花で埋める会」が市民の花をバラと決めました。

1958年

市女性問題対策審議会の提唱で「市民公園を花で埋める会」が発足しました。各家庭から手持ちの種子の提供や事業所等に種子代の寄付を呼びかけることからはじめ、やがて「花いっぱい運動」などの様々な市民運動へと広がっていきました。

1958年

第1回花壇コンクールが実施されました。（20団体の参加）

1960年

「花壇コンクール実施要領」が定められ、年2回春と秋に実施すること、花壇用の苗は市の苗圃で育てて参加団体に無償配付すること等が決定しました。

1972年

宇部市緑化運動推進委員会（会長：宇部市長）が実施した一般公募により、市花を「サルビア」と決めました。

2004年

楠町との合併により、市花に「つつじ」を追加しました。

2014年

2011年に花壇コンクールが100回を迎えたことを記念し、ときわ公園内に「花いっぱい運動記念ガーデン」がオープンしました。

2017年

「うるおいが感じられるまちづくり」を目指し、中心市街地で「まちなか緑と花の回廊づくり」を始めました。

現在

2018年度秋の花壇コンクールで114回を迎え、180を超える参加団体があります。

まちなか **緑と花の回廊**
UBE CITY





野外彫刻展

「緑化事業」、「花壇コンクール」等に続き、自然（緑と花）と人間（市民）との接点として、まちに彫刻を置こうという「宇部を彫刻で飾る運動」が市民運動として広がりました。

1958年

花の種子の購入基金の一部で、宇部（現宇部新川）駅前広場に、ファルコネの「ゆあみする女（複製）」を設置し好評を得たことで、まちに本物の彫刻を飾ろうという機運が高まり「宇部を彫刻で飾る運動」へと発展しました。

1961年

この市民運動を受けて、大規模な彫刻展（我が国で初めての野外彫刻展）「第1回宇部市野外彫刻展」が開催されました。

1963年

「第1回全国彫刻コンクール応募展」が開催され、受賞作品を中心とした彫刻がまちに設置されるようになりました。

1965年

「第1回現代日本彫刻展」と名称を改め、隔年開催となりました。

2009年

2000年代に入り、海外への公募を積極的に行う中で、「第23回UBEビエンナーレ（現代日本彫刻展）」と名称を改めました。

2011年

「第24回UBEビエンナーレ（現代日本彫刻展）」で通算26回、野外彫刻展50周年を迎えました。

現在

「UBEビエンナーレ（現代日本彫刻展）」は、世界で最も歴史のある野外彫刻の国際コンクールとして展開しています。都市景観と彫刻との関わりの追求は、パブリックアートのさきがけとして全国の「彫刻のあるまちづくり事業」のモデルとなっており、ときわ公園や市街地を中心に、市内には約200点の野外彫刻が常設展示されています。



いずれの取り組みも、市民の声や活動を契機に事業が展開され、市の財産として培われてきました。それらが全て「緑と花と彫刻のまち宇部」につながっています。

2

宇部市と バラ

本市とバラとの関わりは1950年代から始まりました。

1955年

秩父宮妃殿下が真締川畔に「白バラ不二」をお手植えされました。

1956年

「宇部を花で埋める会」（会長：宇部商工会議所会頭）が市民の花をバラ（※）と決めました。

（※）現在の市花は「サルビア」と「つつじ」です。
（P 8の「花いっぱい運動」参照）

1990年

宇部市出身の原田一雄氏により、つる性ミニバラの「宇部小町」が作出されました。

2013年

山口宇部空港に薔薇（バラ）園が整備されました。（現在では、約160品種・約1,000株が植栽されています。）

現在

中心市街地には約80品種・約420株のバラが植栽されています。

現在では、ときわ公園をはじめ、空の玄関口である山口宇部空港にも多くのバラが植えられて、開花期には人気のスポットになっています。また、中心市街地にも植栽されていることから、市内の多くの場所で楽しむことができ、宇部市らしさを表す重要な花の一つとなっています。

宇部小町▶

